飛騨山脈魅力発見！コミュニティ通信第４号（2020 年 7 月 3 日発行）

飛騨山脈ジオパーク『ジオサイト』紹介コーナー

ひだじお～地べたの見どころ30～　No.17●蓑谷の三滝
「三つの滝の歴史」

蓑谷の三滝とは、高山市上宝町蓑谷付近の3つの滝をいいます。これらの滝は、沢上谷の上流部にあり、沢上谷は白水谷と合流して高原川に注いでいます。高山市丹生川町折敷地から県道89号線で峠を越えると上宝町蓑谷です。県道をさらに進むと、東方に絶壁と滝が遠望できます。

最も右側の沢上谷本流にある滝が蓑谷大滝です。大滝の左に山犀滝（岩洞滝）、さらに左に少し離れて五郎七滝が見えます。蓑谷大滝は水量が多く、山犀滝はまっすぐ落ちています。五郎七滝はすべり台のような、なめ滝です。山犀滝は、明治初期の「斐太後風土記」に瀧ヶ平山中の滝としてその名があります。また、「飛騨の山山」（酒井昭市著）によると、地元の蓑谷では、山犀滝をみそしる滝ともいいます。その由来は、滝の上流にある大原の人が味噌汁などを捨てたからとされます。他に、みぞの終りの「みそしり」からきているともいわれます。五郎七滝の名は、この滝に誤って落ちて亡くなった村人の名からきています。蓑谷の三滝は、すべて、上宝火砕流による溶結凝灰岩の崖を流れ落ちています。上宝火砕流は、約65万年前に奥飛騨温泉郷福地の南方の貝塩付近から噴出しました。高温の火砕流（火山灰などの火山噴出物）は、主に西方に向かって今の高山市街地あたりまで流れ下り、火砕流台地を作りました。今でも台地の一部が所々残ります。高温で流動性のある火砕流も、冷えると溶結凝灰岩という硬い岩石になります。この岩石の火砕流台地は、侵食に伴い絶壁を作りやすく、蓑谷の三滝はこの絶壁にできた滝です。

（飛騨地学研究会●中田 裕一）

県道から望む「蓑谷大滝」